

【平成28年度 第1回提出】業務棚卸評価シート

1 事業の概要と実績

No.	5			シート作成者		-	-
事務事業名	条例(案)、規則(案)等の審査事務			事務区分	自治事務		
				部課かい名	総務部 文書法務課		
事業の目的	条例、規則等について、法的適格性、法的正当性及び法的協調性を確保する。			事業の目標	条例、規則等の法的適格性、法的正当性及び法的協調性の確保		
事業の概要	例規等審査会により条例(案)、規則(案)等について審査を行う。						
対象	職員			事業の性質区分	定例・定型		業務計画
	■						
指標	例規等審査会に付した条例、規則等の数(第2次実施計画) 適切な審査が行われた条例、規則等の割合(第3次実施計画)						
	27年度(第2次実施計画)		28年度(第3次実施計画)		29年度(第3次実施計画)		30年度(第3次実施計画)
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
	100	163 (100%)	100%		100%		100%
事業費	27年度		28年度		29年度		30年度
	実施計画事業費	-	648,000	660,000	660,000	※金額については1円単位で記入してください	
	予算額	648,000	648,000				
	決算額	647,208					
	執行率	99.9%					
	従事者数	3.48	4.70				
	職員	3.48	4.70				
財源内訳	臨時・非常勤等						
	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
一般財源	648,000	648,000					

2 事業実施状況に対する評価

事業の必要性
<p>条例、規則等は、市民に対し義務を課し、又は権利を制限するものであったり、事務の執行の根拠となるものであったりすることから、内容を適切なものとした上で、適正な手続の下に制定される必要があり、事業の必要性は極めて高い。</p>

事業実施状況に対する分析(課題の抽出)

事業成果	<p>27年度は163件を審査したが、その中には複数の条例、規則等を一つの案件として審査しているケースもあり、実際には200件近い審査をしている状況の中、全ての案件について例規審査会で承認を得ることができており、成果は十分に出ている。</p>
事務効率	<p>年々対象案件が増える傾向の中、各課との調整に要する時間も多くなると同時に例規案をまとめるまでに要する時間も比例的に増え続け、職員の時間外勤務が常態化している状況であり、ワークライフバランスの点からも少しでも事務の効率化を図る必要がある。</p>



事業成果及び事務効率に対する評価
<p>成果があがっているが、実施手法は効率的でない</p>

3 今後の事業展開(事務改善)

今後の事業展開(事務改善)	
改善の方向性	27年度の評価を踏まえた28年度以降の取組内容
<p>事業(活動)の効率を上げる</p>	<p>法令の改正に伴う条項ずれの修正、実質的に意味が変わらない形式的な文言の修正等の軽微な内容の改正について、例規等審査会による審査を省略することとする。</p>

